開かれた 技術職員室

神亀　理恵

１．はじめに

現在、都市デザイン学部の技術職員として 3 名が配置されている。そして、その執務用のデスクが置かれているのが都市デザイン学部実験実習棟 1 階にある技術職員室である。実験実習棟 1 階には構造実験室、水理実験室、地盤工学実験室、材料工学実験室、各実験準備室と 4 研究室合同の学生居室があり、2 階には 5 教員室と 4 演習室がある。設計初期段階では技術職員室は建物入り口に位置し、より機能的なはずであった。が、今は長い長い廊下の一番奥に存在する。困ったことに外部の人や教職員および学生はその長い廊下を経て技術職員室にたどり着くまで、誰かいるのかいないのかがわからない。不在にしていれば、またその長い廊下を折り返していくことになる。もちろん建物の入り口にはドアホンも取り付けてあるが業者ではない限り、なかなかそのドアホンを鳴らす人はいない。よって、長い廊下の端から一目でわかるように、在室時、技術職員室のドアは開けている。

２．もう一つの役割

他の技術職員の方々の部屋はドアが閉められているのが通常であると思うが、私たちの部屋は技術職員の在室時はドアが開けっぱなし、要は開放状態、というのが現状である。しかし、それは在室を知らせるためだけではない。1～3 年生は助言教員制度が、4 年生や大学院生には指導教員がいるが、それにプラスして、講義課題や実験レポートの質問はもちろん、たわいもない会話、ちょっとした相談でも学生たちが技術職員室に足を運びやすい環境に、というのが本当の理由。学生からすれば技術職員室といえども、長い廊下の一番奥の部屋のドアをノックし飛び込むには意外とハードルが高く感じられるだろう。

私が所属する都市・交通デザイン学科は新設されてから 5 年が経とうとしている。学科としての歴史が浅く、先生方も一生懸命に学科を作り上げている状態。そんな中で、同じ年頃の子を持つ親としても、数十年前に同じような分野を学びゼネコンで働いた経験がある身としても、長く生きて色々経験してきたものとしても、少しでも学生の心に寄り添えればと思う。ちょっと行ってみよう、聞いてみよう、話してみようと気軽に訪れられる、そんな場所でありたい。当然、課題等の質問に答えるには自分自身も日々の学習は欠かせず時間を要する。傾聴は重要であり容易なことではなく、傾聴の講習会に参加しゲートキーパーの研修も受講している。通常の業務に加えて時間を費やし、それは技術職員の仕事なのか、そこまでしないといけないのかと言われれば、ただのお節介かもしれない。しかし、学内を眺めれば、教員人件費ポイントも削減され教員数が年々減り、若手教員が補充できたとしても先生方の様々な負担は年々増え、教員と学生との意思の乖離が見え隠れする。よって、これまでの技術職員の職務に加えて、教員と学生との橋渡しができる立場としての役割も欠かせないのではないかと思う昨今である。

ここで改めて技術職員としての現在の業務を挙げるが、講義としては主に実験、測量、設計製図Ⅰ・Ⅱ、データサイエンスⅠ・Ⅱ、入門ゼミナールに関わっており、実験・実習・演習の補助や指導を行っている。フィールド実習には同行し学生の安全管理、卒論研究や共同研究、学生主体の自主プロジェクトでは補助や助言もする。実験実習棟の管理、多々ある実験装置の管理やメンテナンスは重要であり一番大きく関わらなければならず、教員との調整を踏まえながら、まだまだ専門的に多くの事をこなしていく必要がある。そして、ただ技術

的仕事だけではなく、学科が軌道にのっていくために必要な用務もこなすのが新設学科での特殊な部分かもしれない。

　ということで、技術職員室には、とにかく学生が入れ替わり立ち替わり訪れてくる。質問や相談、近況報告やたわいもない会話、自習の学生もいる。確かに時間を取られ忙しさも増すが、無下にはできない。居合わせた高学年が教えてくれたり学生たち同士の新たな交流も生まれたりする。たまたま教員が居合わせれば、そこで質問ができたり助言をもらえたりもする。学習関係の質問はもちろん、ただただ話を聞いてほしい、少しだけ背中を押してほしい、そんな学生たちが納得いくまで勉強できたり、話せたり、泣けたり、希望が持てたりできて、技術職員室を出て行くときには少しでも笑顔になってくれれば、と受け止めて送り出すことが多い。

　これを書いている今は春休み、しばらく静かな技術職員室。

３．おわりに

　今までに測量実習や実験、学生主体の自主プロジェクト活動、フォークリフト運転技能講習受講、防災士資格取得、ゲートキーパー研修等をこなし、技術部報告集に投稿する機会が何度もありながら怠っていた自分を反省。やっと、投稿することができました。私に巻き込まれている他 2 名には迷惑な日々かと思いますが、彼らも可愛い子を持つ親であり愛がありますから、わかってくれていると信じています。ちなみに技術職員室は開放状態でも省エネを心掛けていますので、ちょっと寒かったり暑かったりしますが気軽に遊びに来てください。長い廊下の端から見てドアが開いていれば部屋にいますので。



